特集：養鶏
「おいしい」の声が綾瀬の卵を支えます

食卓に並ぶ卵。その一つ一つには、生産者の愛情が注がれています。畜産の盛んな綾瀬で、地産地消が進み、その潜在力に期待が寄せられているのが養鶏業です。綾瀬では、3戸の農家が養鶏を営んでいます。良質の卵を供給する生産者の取り組みや思いなどを紹介します。

市内採卵農家3戸が約4万5千羽を飼育

養鶏には採卵と食肉用があり、綾瀬の場合は採卵農家になります。

綾瀬に採卵養鶏が入ってきたのは大正期で、昭和初期には千羽程度が飼育されていました。戦時下の混乱期には100羽前後まで減少したものの、戦後の食糧増産の時代には、7戸の農家により2千羽から3千羽規模で飼育されるようになりました。

昭和30年代に入ると、平場飼育（野放し）から立体飼育（鶏舎）の方式になり、農家も20戸になるとともに羽数も増加し、外国種などが導入されました。

昭和45年には90戸の農家が20万羽を飼育していましたが、その後は都市化の進展や後継者の不足により減少し、現在では3戸の農家が約4万5千羽を飼育しています。

綾瀬で生産される鶏卵の多くは、直売所などを通じて市内で消費されており、地産地消の象徴的な展開を見ることができます。

良い卵を消費者へ生産者共通の思い

綾瀬の養鶏を支え続けている3戸の農家。たゆまない努力で、綾瀬の卵を守っています。規模や事業展開はそれぞれ異なりますが、良質の卵を生産し、消費者に提供しようという共通の思いがあります。

細谷健一さん

細谷物産直売所

大正5年に曾祖父が養鶏を始め、現在、（有）細谷物産で事業を営む細谷健一さん（47歳、上土棚中）は、卵の生産・直売のほか、プリンなどの加工品も開発・販売しています。

「健康な鶏は、良質の卵を産みます。鶏にストレスを与えないよう、細心の注意を払って飼育管理をしています。鶏の生態を熟知することが大切ですね」と、飼育の要領を話します。

「コンサルタントとの信頼関係を築き、良質の飼料を仕入れています。季節によってカロリーを調節しているほか、オリゴ糖を入れて腸内環境を整えています」と、飼料の特長を挙げます。

同社では、プリンなどの加工品も開発し、平成21年から販売を開始しました。

「当社の卵の良さを多くの人に知ってもらいたいという思いがありました」と、開発した当時を振り返ります。

自慢の卵を惜しみなく使用した濃厚な味わいのプリンは評判が高く、同社の直売所のほか、「てらおの直売所」（寺尾西）や市役所内の喫茶室でも販売しています。

「今は、養鶏も厳しい時代です。それでも、直売などでお客さんから『おいしい』という声を直接聞くと、励みになります。親しいお客さんも多く、皆さんの声や期待に応えられるよう、これからも着実に事業を展開し、安全・安心で良質の卵を提供していきたいですね」と、展望を話します。

鈴保養鶏園直売所

昭和25年から養鶏を始め、昭和39年に法人となった（有）鈴保養鶏園の代表取締役が、鈴木光雄さん（63歳、上土棚中）です。

卵の生産・直売のほか、プリンやケーキなどの加工品も多数開発し、販売しています。

鈴木光雄さん

昨年12月から、自社開発の加工品の販売も始めました。プリンをはじめ、卵焼き、シュークリーム、ロールケーキ、焼き菓子など、種類は豊富。直売所のショーケースを彩っています。

「都市近郊で生き残るには、卵のみでは難しいという思いがあり、加工品を開発しました。プリンは卵をたっぷりと使用し、砂糖を控え目にしています。高齢の方にも『食べやすい』と好評です。栄養価も高く、『スイーツ』の枠を超えて、機能食としてもお勧めです」と、加工品に取り組んだ経過などを説明します。

「卵はその中でひよこが育つほど、タンパク質をはじめとして栄養価が高く、栄養食品としては最高です。卵を食べれば元気になりますよ」と、卵の良さをアピールします。

澁谷養鶏農場

約50年前に父親が始めた養鶏を若くして継承し、その後40年にわたって事業を営んでいるのが、澁谷養鶏農場の代表を務める澁谷朗さん（59歳、吉岡）です。

澁谷朗さん

飼育している鶏は「ハイラインソニア」が約85％で、「ボリスブラウン」が約15％。ハイラインソニアが産む「ピンク卵」は、その名が示すように殻が薄いピンク色になっており、綾瀬周辺地域では珍しい卵です。

「鶏の飼料は、遺伝子組み換えがされず、収穫後には農薬を一切散布していない穀物を使用しています。鶏の健康管理は徹底して行っています」と、安全性の高さを特長に挙げます。

卵は同農場での直売のほか、自動販売機でも販売しています。

「17年ほど前に、清水市内の養鶏場を視察する機会があり、そこでは自動販売機が導入され、わずかな駐車スペースがあるだけで、とても効率よく販売されていました。その様子を目の当たりにし、当農場での導入を即決しました。今では、当農場の広告塔のような存在になっています。実感はありませんが、知人からは『いつも車が止まっている』と言われます」と、自動販売機導入の経過や利点を話します。

安全・良質な卵を追求する一方で、「当然、飼料代は高くなりますが、単純に価格へ反映することはできません」と、苦悩も顔をのぞかせます。

「市内に限らず、近隣の市や遠方からも買い求めがあります。そうしたお客さんの『おいしい』という声は、何ものにも代え難いですね」と、喜びを表します。

消費者の声が何よりの励み

それぞれの農家が工夫や努力を重ね、生産している綾瀬の卵。今日も、私たちの食卓に並んでいることでしょう。「おいしい」という声が何よりの励み－。それぞれの農家に共通する思いです。

これからも、皆さんの声が綾瀬の養鶏を支えていきます。

鶏は生まれてから5カ月目で卵を産み始め、1日に1個程度を1年半ぐらい産み続けて、ちょうど2歳ぐらいで産む仕事を終えます。

問農業振興課
☎70・5622

卵は最高の栄養食品。
私たちの思いが
詰まっています。

60パック限定
産みたて卵直売
9／4（水）10：00～

細谷物産、鈴保養鶏園、澁谷養鶏農場の産みたて卵を直売します。

9月4日（水）10時から（売り切れ次第終了）、市役所1階喫茶室「むー」。60パック限定販売（1パック10個）。
問農業振興課
☎70・5622。

座談会　綾瀬の養鶏

【出席者】
細谷健一さん（細谷物産）
鈴木光雄さん（鈴保養鶏園）
澁谷朗さん（澁谷養鶏農場）

市内で養鶏を営む皆さんが、養鶏や卵への思いなどを語り合いました。

歴史

鈴木　綾瀬では細谷さんが最初に養鶏を始めたと聞いています。

細谷　大正5年に曾祖父が始めました。当時は100～200羽程度を飼っていました。

鈴木　私は昭和25年生まれで、その年に父が養鶏を始めました。牛や豚は経費がかさむものでしたが、鶏は毎日の収入になるのが魅力だったようです。昭和30～40年頃には、綾瀬にも30～40軒の養鶏場がありました。

澁谷　私の家の近くにも3軒ほどありました。鶏は手軽に飼えるところが利点です。

鈴木　卵が売れなくなり、次第に養鶏農家は少なくなっていきましたね。

細谷　今も厳しい時代で、決してやりやすい状況ではありません。卵の価格は下がり、一方では飼料代が高くなっています。

澁谷　立地面の厳しさもあります。

綾瀬産のおいしさの理由

細谷　実際に飼料が違うので、味はいいですね。

鈴木　飼料会社も絞られ、安全な飼料を使っているという自負はあります。もちろん、他の地域の飼料が良くないということではありません。

細谷　スーパーの卵が良くないということでもなく、温度管理などしっかりされていますね。

綾瀬の特色・ブランド化

細谷　畜産の中で最も差別化が難しいのが養鶏でしょうね。

鈴木　極論を言うと、赤い卵、白い卵という違いぐらいではないでしょうか。卵肉兼用種というものも考えられていますが、お客さんに受け入れられるのか見極めが難しいところです。

澁谷　ブランドは信者を作れば勝ちという側面もありますが、本当の価値が大事ではないでしょうか。赤い卵でなければブランドとしては認められないような風潮もあります。

鈴木　黄身の色はいくらでも変えられるので、実験で七色の卵を作った人もいます。県内でも黄身が赤いものが売られています。

澁谷　高価であっても売れていますね。

細谷　他県からの購入もあるようです。

鈴木　鶏にお米を与えれば、白い黄身ができます。それで売られているケースもあります。

細谷　東北には白っぽいものもありますが、黄色を見慣れている人には抵抗があるかもしれません。

鈴木　お米を飼料に使うことは、飼料自給率の面や稲作を守る意味からも良いことと言えます。白い黄身で作ったケーキを売っている人もいます。飼料に使うというのは最近普及したことで、定着するかは分かりませんが、イベントなどで披露するというのも楽しいでしょうね。

各戸の飼育の特長

澁谷　遺伝子組み換えではなく、収穫後に農薬が散布されていない飼料を使っています。

細谷　飼育管理をしっかりして、健康な鶏を飼育しています。それが、いい卵を産むことになります。

鈴木　飼料は吟味しています。メーカーやコンサルタントとの信頼関係を築き、安全な飼料を仕入れています。

細谷　鶏は狭い小屋の中に入っているので、人間の気持ちに置き換えて飼育しています。

澁谷　抗生物質は成鶏、卵の鶏に与えてはいけません。業界では常識ですが、こうしたことを徹底しています。

鈴木　ケージ内の鶏の数を少なくしています。

澁谷　同じ敷地に10羽いるのと5羽いるのとでは、ストレスが違ってきます。

鈴木　そういう意味では、おいしいはずですね。

今後の展開

細谷　大きく発展することは難しいかもしれませんが、事業を着実に維持していきたいですね。

鈴木　堆肥センターをつくってもらい、とても感謝しています。住宅地でも安心して養鶏ができます。園芸農家との連携などで、堆肥を円滑に循環できるようになるといいですね。綾瀬の特産品であるブロッコリーを使ったスイーツができないかという話もありました。循環型という点からも、物語になると思います。

写真左から鈴木さん、澁谷さん、細谷さん

卵直売所紹介

細谷物産直売所

卵ほか、プリン、卵焼きを販売。
ⓘ上土棚中2－18－13
ⓣ8：00～11：45・14：30～16：00（日曜日は午前中のみ）
□無休
☎76・7972

鈴保養鶏園直売所

卵ほかプリン、卵焼き、ロールケーキなど各種加工品を販売。
ⓘ上土棚中4－10－40
ⓣ10：00～17：00（日曜日は13：00まで）
□水曜日定休
☎70・2011

澁谷養鶏農場

「ピンク卵」ほか各種の卵を販売。
ⓘ吉岡1714
ⓣ15：00～18：30（自動販売所は24時間）
□無休
☎78・2514

■グリーンセンター綾瀬

鈴保養鶏園の卵・加工品、澁谷養鶏農場の卵ほか市内農産物などを販売。
ⓘ深谷中3－4－5
ⓣ9：00～17：00
□第3水曜日定休
☎79・0808

■てらおの直売所

細谷物産の卵・加工品ほか市内農産物などを販売。
ⓘ寺尾西3－11－27
ⓣ10：00～18：00
□火曜日定休
☎81・3624